

調査結果の概要

■ 平成29年度の成果

- 既存資料の収集及びヒアリングにより、調査の対象種（ヒシ、シジミ）の生態を把握した。特に気候変動で影響を受けると考えられる塩分に着目し、情報を整理した。
- 若狭湾の塩分の影響を受ける三方五湖について、対象種の分布や変動を把握し、地域の水系などの地理的特性を整理した。
- 塩分の推定に向けた水位の推定手法として、水理モデルの利用を検討した。

■ 明らかとなった課題

- 気候シナリオで提供される要素の特性に合わせ、水理モデルの簡略化及び予測式の修正が必要となる。

■ 平成30年度の調査計画

- 将来的な塩分の変化を予測するにあたり、既存のデータを補完する観点から、塩分の現地調査、及び現状のヤマトシジミ生息密度、底生動物の調査を行う。
- 水理モデルの構築を行うと共に、観測された降水量及び海面水位、各湖の塩分、水位等の関係を解析し、統計的関係を整理する。
- 上記を用いて、将来の各湖の将来の塩分の影響評価を行う。

対象種と塩分の関係

対象種	塩分との関係
ヒシ	発芽期の塩分： 2～5psu※ ¹ 以上では枯死
ヤマトシジミ	稚貝着底時の好適な塩分： 1.8～12.9psu

ヒシ：Nishihiro et al. (2014)より、日本ミクニヤ(株)作成
ヤマトシジミ：石飛他(2016)より、日本ミクニヤ(株)作成

※1 Practical Salinity Unitの略で、海水の塩分を示す実用単位。